

死 敗 品 調 書

未 譜 地	現 住 所	所 屬 部隊	入 国 年 月	官 等 級	機 長	飛 行 時 期	兵 种
飛行場出發年月日	飛行場到着年月日	不 明	昭和十八年一月十日	飛 機	氏 名	入籍備考	
勤務の概要	アカ島に就、薦、補	不 明					
登録文書年月日	不 明	アラリヤ					
飛行場登記年月日	飛行場登記年月日	不 明					
飛行場登記年月日	飛行場登記年月日	不 明					
飛行場登記年月日	飛行場登記年月日	不 明					

16

昭和二年十一月二十三日

本籍地	現籍地	官等級	入籍番號
新嘉坡	新嘉坡	不詳	不詳

備

考

(一) 本明書は新嘉坡入は残務取扱者等之地方復員局入新嘉坡在連絡する事、
者在者に於て知得し馬上申し認むるもののみに付記致す。

(二) 本籍在籍の特務士官准士官下士官吏上付記載す。

(三) 国府縣人は勿論他府縣出身者に就くもの記載す。

(四) 知得し馬上範圍に於て出来難い限り詳細に記載す。

(五) 他人より聞きと事項は各當該欄に相手方を記載す。

本明書は右復員局

よりあるから請承り下さり

言ふ道根外紀のしなる

昭和三十四年二月十三日

本局各事務課並木等主事等

佐藤也吉復員残務処理部復員業務課

未復員者消息に因する件回答

佐藤人第王號九三として御照会の元老院長

は昭和五

年九月十五日附一五官基より降り立人室に勤勤し同隊勤務中
謀叛清年十一月二十五日行方不明となり同日附戰死と認定され
る行方不明の状況は左記の通ですが此の事は当時

氏

公保貢元上轄

氏

の記憶に依る所であります私共行方不明の等の状況は記憶と
あります。が不明の如寒がありて不快一五官基より降り立人室に
と同日転勤にて来て

氏

門と同名前であります行方不明多日の作業員二人であり
確実な状況を得る事が出来ません

廣

昭和三十四年二月十三日

氏の言に依り事と戰死初定に附する書類等は終戦直す(日韓不詳)今隊長より戦勢に渡りては左がつて右がつかと申奉るも此れは当然整頓する筈であります。不當隊力五倍は各陣地は全離し一陣地間より連絡も意の如くあらず又終戦直後も混雜に書類紛失一々あらぬり在る人が私在隊中は任方不即で未整理にて私は南東方面の隊残務整理にて在隊より先に敵を知り未だかれども宿泊の後は残務整理はされやうあがつておる

記

行本不及戦死認定月日

昭和十九年十一月三日午後四時頃

" " 場所 ニュアリテン島ラハウル

状況

昭和十九年五月二十日午後二時頃

名簿表元大隊

の印付元二曹七

四名上共口防空壕資材取扱業者と一陣地宿泊四浦

9482

184-1

2064

No. 3^a

海岸に於て作業中同日午後四時頃敵機の編隊空襲の元上
港要[REDACTED]外二名は附近の小さな商店街に退避[REDACTED]女一が元妻
長[REDACTED]夫作業の都合上外の防空壕に退避[REDACTED]一もゆと因る
間ち外物達、爆弾の洗礼の見舞[REDACTED]爆弾終りたるも
は渠を犯せず其の後四〇度に亘り搜索隊を以て附近を捜
索せが遂に発見すと互うに当時の状況より推察するに
直轟彈生産多小さく防空壕あり敵機の爆弾空襲り同様
防空壕にあり壯烈ある戦死を遂げゆもゆと認定す
(以上機関書類を度数に提言一こと) [REDACTED]氏の言アリ)

（参考）

104-11

2605

本
職
事

現
任
所

所
屬
部

入
出
年
月

昭和十六年八月一日

第一旅團司令部

兵糧水兵

實
名
報

長

生平
履歷

人相合

報到年月日

昭和十八年七月十日

體
格
・
在
勤

昭和十八年七月七日

（略）

登記（軍籍）年月日

昭和十九年十月十四日

姓名（二重姓前田）

熱帶症 てうりア 痘跡久

參軍受領（又ハ親死時ノ狀況）

十一月上旬一時全體之手食歎ケテ是、嘔氣、腹痛、便祕之等々有之。

病害、入室加療

死亡年月日

昭和十九年十二月三十一日午後四時十五分

2066

233

石門告文

昭和二十二年五月三日

本籍地

現任所

氏名

石同
考七特陸

八

海軍中尉

卷之二
一本
便道間事
人
ヨシ入
トア
輪
千
云
基
社
ニ
ト
各
的
錢
做
ニ
做
湘
手
五
記
紙
石